

初めての防災デジタル・クイズラリー

7月31日、大阪市港区にある東急マンション弁天町において、初めての防災デジタル・クイズラリー（以下 クイズラリーと略します）が行われました。当マンションは、11階建てで築45年、住戸数140戸、1階部分の12区画はすべて店舗や事務所になっている併用型のマンションです。

この日は、当マンションにおいて消防訓練が行われる日で、それに合わせてクイズラリーを行いました。消防訓練はコロナ禍のこともあって、3年ぶりに催された行事とのことでしたが、管理組合の理事長はじめ理事の方々の熱心な参加呼びかけもあって、多くの住民の方々が参加し、初期消火訓練や心肺蘇生の救護訓練などに一生懸命に取り組んでおられました。地域の消防署の協力を得ていますので、消防車の出動もあり、子どもたちも興味津々で参加していました。



写真1 消防訓練の様子（消防署員の説明を聞く住民の方々）

消防訓練のあと、防災デジタル・クイズラリーを行いました。このクイズラリーというのは、住民の方々、特に今回は子どもたちに住まいの安全や防災に興味・関心を持ってもらおうという狙いで、マンションに備え付けられている数々の防災設備についてクイズ形式で問題を出し、考えることを通じて、知識を得てもらおうという取り組みです。

このラリーの新しい点はスマホを用いてクイズを解いていくところです。マンションの防災設備のある場所まで来ると、QRコードで表示された問題が掲示されているので、それをスマホの写真機能を使って読み込むとクイズの問題が現れます。選択式で答えを選び正答するとポイントが付与され、最後まで解答すると賞品がもらえる仕組みです。



写真2 壁に貼られたQRコード

問題とした防災設備としては、消火器や避難口誘導灯、非常ボタンなどよく見慣れたもののほかに、放水口、送水口、煙感知器、非常用照明装置、避難ハッチなどを取り上げています。

消防訓練を終えた後、住民の方々を10数名ずつ3グループに分け、集合住宅維持管理機構のメンバーが引率と解説をする形でラリーが始まりました。住民の方々には予めQRコードの添付位置を示した資料やスマホでのラリー参加の方法などを示した資料を配布していたのですが、持参してくださる方が少なく、当日に紙媒体での参加の方もおられました。私が参加したチームは10名ほどのメンバーでしたが、小学生が3名、社会人の青年が1



図1 防災クイズラリーの事前案内チラシ

名、小さい子どもさんを連れてお母さんが3名+幼児3～4名の構成でした。QRコードはマンションの1階、6階、11階に張られており、3グループが重ならないようそれぞれの階へと向かって、ラリーの開始です。

私たちのチームがまず向かったのは6階です。このフロアには消火器、非常ボタン、防災倉庫、非常用照明装置、避難口誘導灯と5つの設備があります。消火器や非常ボタンはどのような役割の設備であるかがすぐにわかるのですが、防災倉庫は見た目はただの扉でしかありません。子どもたちもお母さんたちも「これは、一体何だろう？」と不思議な顔。そこで機構メンバーによる解説の後、鍵を開けてもらうと、災害時の救助に必要な道具や備蓄品などが収納されていました。扉の向こうに、災害時に備えた道具や備蓄品がたくさん収納されていることに参加した方々は驚いておられました。また避難口誘導灯は、人が逃げる形を描いた緑色のマークですが、停電時でもよく見えるようにバッテリーが入っていて光るようにになっていることの解説もありました。



写真3 解説をしている機構メンバー

次に11階に上がりました。ここには放水口と煙感知器が備えられています。放水口の扉を開けると太いホースが2本、巻かれて収納されています。煙感知器は、火事が発生し、煙を感知するとベルが鳴り人々に火事を知らせる装置です。

そして、最後に1階へ向かいます。AED、非常用の給水栓、避難ハッチ、送水口があります。AEDは心肺蘇生の救護訓練でも使いました。非常用の給水栓は、停電で給水ポンプが止まり、マンション全体で水が出なくなっている時でも使える水道です。避難ハッチは緊急の際に上の階から下の階に逃げるための梯子が収納されて

います。送水口は火事の時に消防隊員が、ポンプ車の水を放水口まで送り込む設備です。解説を聞かれて住民の方は、「いつも見ているけれど水が出てくるものだと思うていたわ。」とご自分の考えが思い込みであったことなどを知らながらクイズに挑戦されていました。



写真4 送水口の説明を聞く住民の方々

そして全問回答したら、受付に戻ってアンケートに答えていただいて賞品との交換です。今回の賞品は、パンの缶詰で、長期保存が効き災害時の非常食にもなる優れたものです。

今回、初めてスマホを用いたデジタル・クイズラリーを行いました。管理組合の方々からは、「見たことのない設備があった」、「防災倉庫や給水栓の存在を知らなかった」、「連結送水管の役割を初めて知った」など概ね行って良かったとの評価をいただきました。

また、機構事務局としては、①住民の方々をグループ分けして各階に散らしたつもりであったが、防災設備の集まっているフロアが混雑してしまった、②子どもたちの参加を期待していたが、思っていたよりも少なかった。そのため、もっと参加の呼びかけが必要、③スマホを使いこなせる人が少なく、当日紙媒体での対応を行う必要があり、手間取ってしまった。また、④スマホの機種やバージョンによっては、うまくデジタルの問題画面が展開しなかったことなどが、今後の課題であると考えています。

今後、他のマンションでのクイズラリーを企画していることもあり、できるだけ改善をして取り組んでいきたいと考えています。

本文：平田陽子（集合住宅維持管理機構 理事）

写真：碓田智子（大阪教育大学教授）